

伊賀線への機銃掃射



「© 松本零士／零時社」

比自岐川にかかる鉄橋（２０２５年６月撮影）

伊賀市では、「再び戦争の惨劇を繰り返さない」という想いから、平成１７年に「非核平和都市宣言」、そして平成２０年からは「平和首長会議」に加盟しています。

平和文化の構築に向け、戦争がもたらす悲惨さから平和の尊さを学び次の世代に紡ぐために「平和のサイン」を設置しました。

伊賀市



１９４５（昭和２０）年８月８日（水）午前１０時頃、近鉄「伊賀線」上野市行き２両編成の車両が、比自岐川にかかる鉄橋に差し掛かったとき、米軍戦闘機が上林駅方面から低空飛行であとを追うように飛来して、機銃掃射を受けました。機銃弾は列車を斜めに横断するように打ち抜いたと言われます。女性の車掌を含む１２人が死亡、２３人の重軽傷者が出ました。

襲撃された直後から在郷軍人のＦさんは、現場に駆けつけ被害にあった人たちの救済の指揮にあたりました。また、上神戸のＳさんは襲撃された列車に乗車していて、負傷者の処置にあたられました。

襲撃で亡くなった人は丸山駅構内にあった変電所に安置し、負傷者は岡波病院にトラックで搬送されました。

身元不明の５遺体は、柎川地区の墓地に埋葬されましたが、終戦後に引き取りに来られたそうです。

同じ年の７月２７日には、依那古村国民学校に２５kg爆弾が投下され、人的被害はありませんでしたが、校舎は大きな被害を受けました。

出典

田畑 孝一 『伊賀の軍事施設と戦災』

依那古小学校創立百周年実行委員会 『依那古小学校創立百周年記念誌』

神戸小青年教職員 『聞き取り 伊賀線空襲事件』